

NEC田んぼ作りプロジェクト（上太田）レポート VOL. 38

新達人田んぼで、初めて収穫をしました！

9／14：達人コースオダ用竹採り 9／29：達人コースもち米稲刈り 10／13：達人コースもち米脱穀

2013年11月15日

- 9月14日（土）参加者： 8名・・活動内容：トキのえさ量調査、オダの保管場所作り、オダ用竹採り
- 9月15日（日）台風レポート 台風18号の影響報告
- 9月28日（土）損保ジャパンCSOラーニング生（大学生ら）が上太田の田んぼを見学に来ました。
- 9月29日（日）参加者：13名・・活動内容：新達人田んぼもち米稲刈り、オダがけ、オダ用竹採り
- 10月13日（日）参加者： 6名・・活動内容：もち米脱穀、谷津田歩きと意見交換
- 10月15日（火）台風レポート 台風26号の影響報告

9／14 オダの保管場所を新しく作りました！

C田んぼ横の今までのオダ保管場所は、夏場の深水管理によって、湿った状態が続くようになってしまいました。そこで、昼食広場横に新しくオダの保管場所を作りました！オダを長持ちさせるために、通気性を良くし、虫の住みかとなることを防ぐ、高床式にしました。



今年の耕作面積は、復田によって1,400㎡から3,200㎡（日本晴だけでも2,600㎡）に増加しています。昨年オダを24棟立てましたが、今年は40棟必要になる計算なので、足りないオダを切り出しました。残暑の厳しい中での作業で、とても大変でした。約50本の竹を切り出し、12組96本のオダ足を作りましたが、まだ8組ほど足りないので次回も頑張ります。



NEC田んぼ作りプロジェクト

2013.09.15~16 台風18号による被害状況について

今回の台風は、最接近時よりも15日の前線による局所的豪雨の方が影響が大きかったです。



水路の流量いっぱいまで増水しましたが、先日の達人コースで橋の修繕を行っていたので問題なく水はけました。水路に移植したマコモや、コウホネは流れていませんでした。



水路の幅が広すぎるのではという指摘もありましたが、田んぼに越水することなく、アウ田んぼに被害はありませんでした。小川からの入水を止めて、掛け流しをやめ、減水させました。



新達人田んぼは、小川との水位差があまりなくほとんど影響を受けていませんでしたが、堰をはずし、水が流れやすくなりました。

17日の田んぼの様子



A田んぼで倒伏が多少見られましたが、稲の回復力にまかせて開闢ないレベルです。入水を止めて稲にまかせます。

C田んぼでは、20数株の倒伏が見られました。台風通過後すぐに、達人さんにより起こして結束する処置が施されていました。ありがとうございました。



B, D, E, アウ田んぼに大きな影響は見られませんでした。

そのほか、倉庫、オガ、水路に植栽した植物などに台風の影響は見られませんでした。達人教習路で、倒木が1本あった程度です。



認定NPO法人アサザ基金 小堀 (2013.09.18)

9 / 28 損保ジャパンCSOラーニング生（大学生ら）が上太田の田んぼを見学に来ました

損保ジャパンCSOラーニング生らによる、かっぱん田（牛久市遠山の谷津田に再生している谷津頭にある田んぼ）合宿のプログラムとして、29名の皆さんが上太田の田んぼを見学に来ました。

達人さんのガイドの下、上太田の活動の歴史と、トキへの夢（数値目標）のほか、達人さんが活動に取り組むことになったきっかけや、活動を続けるモチベーションの維持方法などについて、具体的なお話をしていただきました。

（右記に学生が作成したレポートを抜粋転載します）

かっぱん田レポート⑤

2013/10/4 (T)

2013年9月28日(土)・29日(日)、かっぱん田で合宿を行いました。今回は二日間あわせて損保ジャパンCSOラーニング生、OB・OGさらにはCSO生のお友だち、南中生や地域の方たち、損保ジャパンの社員の方など様々な立場の人が集い、29名の方がイベントに参加しました。初日はかっぱん田でお昼を食べ、その後 NECさんと協働で再生している谷津田に移動しそこで中心とな



って活動している達人さんのお話を伺いました。田んぼの管理についてはもちろんですが、それ以外にも周辺の雑木林や竹林の手入れなどの周辺の環境づくりのお話や NECの方が熱心に参加し管理しているというお話、活用はまださうですが田んぼの気温や水温などの観測をなさっているというお話などを伺い、今後のかっぱん田を考える上で大変勉強になりました。かっぱん田も、もっと多くの人に関わっていくような場にしていけたら、と思いました。

6月2日に田植えを行ったもち米「マンゲツモチ」の稲刈りを行いました。イベントでは、ボランティアスタッフとして指導役になる達人の皆さんも楽しく稲刈りをする事が出来ました。2畝ほどの田んぼは、あっという間に刈り取りが終わり、来年はもっと面積を広げて、もっとたくさん収穫したい！との声もありました。



C田んぼの横に立てた2つのオダに架けきれなくなるほどの、稲束が収穫できました。どのくらいの収量になったか、脱穀が楽しみです。

午後は、前回に引き続き竹採り作業を行いました。日本晴の稲刈りにむけて40棟分の足が準備できました。



お昼休みに定番化してきたソーラークッカー、天気が良かったこともあり、効率よく調理が出来ました。

牛久女化の名産「落花生」を地元ならではの食べ方、生からゆでて食べました。お湯もどんどん沸いたので、食後の珈琲・紅茶も美味しくいただきました。



10/13 昔ながらの道具を利用して、もち米の脱穀をしました

昔ながらの脱穀道具である、足踏み脱穀機（通称：ガーコン）と、唐箕（とうみ）を使って脱穀を行いました。ガーコンでそぎ落とされたモミを飛び散らないようにするカバーの製作に毎回時間がかかっていましたが、今回家庭用の温室を利用することで準備が簡単になりました。作業の様子も透けて見えて楽しい。ただし、テミの外にもモミが落ちてしまうので、今後改善が必要そうです。



モミ収量で約50キロのもち米が収穫できました。新春の餅つきが楽しみです。

10/13 今後の再生計画について谷津田を歩きながら意見出しをしました

2010年、復田前の生物調査からスタートした上太田の田んぼ、今後重点的に再生を行っていく、56番地かも池から新達人田んぼまでを歩いて、参加者のアイデアを集めました。



＜参加者から集まったアイデア＞

★以下みなさんの意見で、この内容に再生計画が決まったわけではありません。

【５６番地かも池】

- ・今までに消失してしまった水生植物を再生する場所にする
- ・水面が一年中ある場所にする
- ・一度、たまった泥をきれいに上げる。
- ・竹林側のヨシ原を野鳥のために残したい。池の中は刈り取る。
- ・今年、復田が残ってしまったＥ田んぼを竹林（昼食広場）側まで広げる
- ・水路周りを高くして、乾燥した部分もつくる。
- ・Ｅたんぼと池の間に泥をあげる

【Ａ田んぼ】

- ・水路の泥をあげる
- ・Ａ田んぼの排水を小川とつなげる（魚道）よりも、ウ田んぼの小川とのつながりを良くすることを優先する。

【Ａ～ウ田んぼ】

- ・竹林側の水路横に作業用の小道スペースを作る
- ・イの縦穴が泥で埋もれた。ただし、見た目だけで埋もれるので注意する。

【エ区画】

- ・倒れてきている竹を今年中に片付けたい
- ・セイタカアワダチソウは、刈り取る。

【エ～コ区画】

- ・一度草刈りをする
- ・上流からの水の流れを新達人田んぼへ引き入れ、エ～コ区画に広がるようにする。
- ・カサスグと草むら、湿地、池、放置する場所、まだらに管理して、色々な生き物が住みやすい空間にする。
- ・オ区画で、ノウサギに遭遇
- ・夏に水をためて、冬に小麦を作るような空間
- ・達人散策路から入れるような入口を作る

【サ区画／新達人田んぼ】

- ・コ区画まで少し広げたい、収量をみて少し寂しかった。
- ・山林側（西側）のヤナギの木、朽ちてきていて危ない。切った方が良い。
- ・達人散策路を延長する、将来的にはホテルがたくさん舞うタ区画まで延長する。
- ・水路に日が当たらず、貝類など生きものが育ちにくい。泥上げをする。

【達人散策路】

- ・枝打ちが必要
- ・藤の根を切る
- ・散策路と谷津田の間は、下草の無い開けた空間にする。
- ・山側（西側）の下草刈り、陽の入る山にする。
- ・散策路途中に間伐した木材で休憩場所をつくる。

などなど、たくさんの意見が出ました。今年２月に行った復田イベント時にとりまとめた意見（レポート３１号参照）や、当初からの案も織り込んで、トキの舞う谷津田を目指した再生計画をまとめていきたいと思います。これからの計画について、みなさまの意見・提案を募集しています。

NEC田んぼ作りプロジェクト事務局（松下） n-matsushita@ap.jp.nec.com までお送り下さい。

